

Le Beausset Motorsports

Formula Nippon

http://www.lebeausset-motorsports.com

レース2は追突されて無念のリタイアを喫するも 9番手を走行して、確かな手応えをつかむ！

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第7戦 ツインリンクもてぎ(4.801km)

2011年よりLe Beausset Motorsportsは、新たに国内トップカテゴリーの全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに挑むことになった。擁するドライバーは、昨年まで全日本F3選手権をともに戦っていた嵯峨宏紀。シャシーこそワンメイクながら、エンジン選択が許されるカテゴリーにおいて、トヨタRV8Kを搭載しての参戦となる。そのシリーズ第7戦が10月5日(土)、6日(日)の両日、栃木県・ツインリンクもてぎで開催された。11月3日よりフォーミュラ・ニッポンに出場する栃木県のチームとして、栃木の魅力・実力を県内外に発信し、元気なとちぎづくりへの支援を行う「とちぎ未来大使」の委嘱を栃木県知事から受けることが決定。スポンサー「エコとちぎ」2011のマスコット「とちまるくん」ステッカーをマシンに貼付し、レース活動を通じ、「とちぎ」をPRしていくこととなった。レースに先駆け、3日(文化の日)に「Enjoy Kids APITA」として、栃木県宇都宮市にあるショッピングモールAPITA宇都宮の駐車場特設コースで、デモンストレーション走行を実施。ショッピングモールでの走行は国内初となる試みに多くの家族連れが訪れ、マシンの走行には大きな歓声が沸き、併せて行われたサイン会やトークショーでも、多くの声援を受けるかたちで、地元で行われるシリーズ最終戦に臨むこととなった。



予選

10月5日(土)天候/くもり コース状況/ドライ

チームのホームコースである、ツインリンクもてぎでのレースは第4戦以来2回目。その時は決勝レース前のフリー走行で5番手につけ、一時6番手を走行するなど好印象が得られていた。レースウィーク最初の走行である土曜日午前中のフリー走行では、その時のデータを生かしつつ、大幅に下がった路面温度を考慮し、セットアップが進められていった。

予選でのアタックを想定した、セッション終了間際の走行でベストタイム、1分35秒411が記録されたものの、コースの後半部分となるセクター4のまとめ上げが完璧とは言えず、逆に言えば、まだまだタイムに伸びしろがあることも明らかに。好印象を得た上で予選に挑むこととなった。

青空が広がっていたフリー走行に比べれば、予選が始まる頃にはサーキットを雲が覆っていたが、どうやら雨の心配はなさそう。今回の予選はノックアウト方式とあって、Q2進出を賭けて最初からニュータイヤを装着してコースに送り出す。

今回は路面温度が低くタイヤが温まりにくい為アウトラップだけでなくもう1周をウォームアップに充ててからアタック。最初のセットでまずは1分35秒233をマークする。いったんピットに戻りセットアップの微調整を行った後、再びニュータイヤでアタックし35秒026にまで短縮を果たすことに成功。その結果、8列目・16番手のグリッドを得ることとなった。



RACE 1

10月6日(日)天候/くもり コース状況/ウエット

今回は2レース制ということもあり、日曜日の朝にフリー走行はなく、いきなり23周で争われるレース1に挑むこととなった。ここではタイヤ交換の義務づけはない。しかしながら、未明まで降り続いた雨のせいで路面は濡れており、スタート進行中のウォームアップ走行では水しぶきも上がっておりタイヤ選択がポイントとなる中、レインタイヤを選択しスタートとなった。

スタートはポジションキープだったが、レインタイヤの威力でオープニングラップは10番手に浮上する。しかし、さらにポジションを上げようとして、2周目の裏ストレートエンドで前車を抜きにかかるが濡れた路面に止まりきれず90度コーナーで痛恨のコースアウト、最後尾まで後退してしまう。しかも、路面状態の回復は予想以上に早く、3周目にはトップとのラップタイムが秒単位の差に。必死に粘り続けたものの、タイヤがブローアップしてしまう可能性もあるため、13周目にピットに戻りスリックタイヤに交換。

終盤にはトップとも遜色のない、1分38秒台で周回を重ねることができただけに、悔やまれるタイヤ選択となった。最終的には13位でのフィニッシュとなった。

RACE 2

10月6日(日)天候/雨 コース状況/ウエット

レース1の終了から3時間あまり。34周で争われるレース2のスタート進行開始時には、まだ小雨がコースを湿らせる程度だったが、徐々に量が増えていく。そのため、今度は早々とレインタイヤを装着することを決定。結局、全車がレインタイヤを履くほど、雨足は強まることとなった。

完全なウエットコンディションとなったレース2はスタートをうまく決めて3台をパス、12番手に躍り出た後、塚越広大(DANDELION RACING)の違反スタートによるペナルティで3周目には11番手に。また、6周目にはオーバーランで順位を落とした平手晃平(TEAM IMPUL)が目前に現れるが、遜色のないペースで追いかける。さらに9周目には山本尚貴(TEAM無限)と伊沢拓也(DANDELION RACING)が接触で順位を落としたこともあり、9番手に浮上する。そのアクシデントによって脱落したパーツがコース上に散乱したことから10周目からセーフティカーが入る事に。嵯峨はバックストレートでセーフティカーの先導する隊列につき走行しているところに突然、「追突された！」との無線。隊列に追いつこうと全速で走ってきた国本雄資(CERUMO・INGING)に追突されたばかりか、左のリヤタイヤに乗り上げられてしまうかたちとなりピットには戻れたものの、ダメージはサスペンションやドライブシャフト、ブレーキキャリパーなどに及んでおりリタイアを余儀なくされてしまう。このクラッシュで嵯峨の他にも、複数のマシンが巻き添えくうかたちでコース上にストップしたことから赤旗が提示される。雨は依然として強く降り続いていたこともあり、赤旗の後にレースが終了されることも予想されたが、結局再開されることに。待望のシングル入賞も夢ではなかっただけに、もらい事故となったアクシデントが惜しまれる結果となった。

これでシリーズは終了したものの、1週間後には富士スピードウェイを舞台に「JAFグランプリ 富士スプリントカップ」が開催される。これが正真正銘、今シーズン最後のレースは給油もタイヤ交換もないスプリントレースに挑むことになる。



Driver

嵯峨宏紀

Koki SAGA

COMMENT

レース1は、まわりがスリックタイヤを履いているのに対し、レインタイヤをチョイスしてスタートしたことで、すぐに順位を上げることができたんですが、路面が乾いてきてからはベース的に厳しくなっていました。途中でタイヤ交換してからのペースは悪くなかったので、スリックタイヤでスタートしていれば、また違ったものも見えたと思います。レース2はスタートもうまくいき、まわりに着いていて9番手まで上がったのですが、セーフティカーラン中に追突されてしまいました。あとちょっとでポイントが獲れそうだったので、残念な結果になってしまいましたがこの経験で得られた事を今後につけていきたいと思います。

チーム監督

坪松唯夫

Tadao TSUBOMATSU

COMMENT

今期最終戦となる茂木では入賞を目標に万全な体制で臨んだ。第1レースでは、ハーフウエットの路面であったが、スタートでのリスクなどを考えウエットタイヤを選択した。第2レースでは、抜群のスタートを決め、視界が遮られるなかドライバーは果敢に攻める走りしてくれたが、入賞まであと一歩のところまで後続車両に追突されリタイアすることになったことが非常に残念。ミスは誰でもするが、あのタイミングで巻き込まれたことが不運であった。

RACE 1

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	36	A・ロッチェラー	PETRONAS TEAM TOM'S	1
2	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOM'S	3
3	41	塚越広大	DOCOMO TEAM DANDELION	2
4	33	国本雄資	Project μ / cerumo・INGING	11
5	32	小暮卓史	NAKAJIMA RACING	9
6	8	石浦宏明	Team KYGNUS SUNOCO	6
7	2	平手晃平	TEAM IMPUL	13
8	18	A・インベトーリ	SGC by KCMG	14
9	1	J・P・カバレー	TEAM IMPUL	5
10	10	小林崇志	HP REAL RACING	17
11	31	中嶋大祐	NAKAJIMA RACING	12
12	16	山本尚貴	Team 無限	7
13	62	嵯峨宏紀	Le Beausset Motorsports	16
リタイア	7	大嶋和也	Team LeMans	4
	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION	8
	11	武藤英紀	HP REAL RACING	15
	3	A・カルダレリ	KONDO RACING	10

RACE 2

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	36	A・ロッチェラー	PETRONAS TEAM TOM'S	1
2	37	中嶋一貴	PETRONAS TEAM TOM'S	2
3	1	J・P・カバレー	TEAM IMPUL	4
4	32	小暮卓史	NAKAJIMA RACING	5
5	7	大嶋和也	Team LeMans	8
6	8	石浦宏明	Team KYGNUS SUNOCO	7
7	31	中嶋大祐	NAKAJIMA RACING	13
8	41	塚越広大	DOCOMO TEAM DANDELION	3
9	11	武藤英紀	HP REAL RACING	15
10	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION	10
11	10	小林崇志	HP REAL RACING	17
リタイア	18	A・インベトーリ	SGC by KCMG	14
	16	山本尚貴	Team 無限	6
	2	平手晃平	TEAM IMPUL	9
	62	嵯峨宏紀	Le Beausset Motorsports	16
	3	A・カルダレリ	KONDO RACING	11
	33	国本雄資	Project μ / cerumo・INGING	12

Le Beausset Motorsports

TOYOTA

DENSO

NPR

TPR

AU AISIN AW

ETICS

豊田自動織機

AISIN

富士電機

Ars

ARISAKI SEISAKUSHO CO., LTD.

NSK

大豊工業

TDK

TAMACHI

MARUYASU

ケーエスアイ

TRAD

DAIDO METAL

icode

Tee-up

Castrol

PERFORMANCE
FRICITION
BRAKES

ODYSSEY

TAKATA

UP START

BILLION

EIHO chemicals
NICHIMOLY

TOYOKO

IDC SYSTEM AG

wax graphics

道の駅もてぎ